

II — A — 10

肺気腫への和漢薬併用療法

公立玉名中央病院 内科

○江頭洋祐，牛島正人，高木昭宏

〔目的〕 最近、高齢化の進行に伴い呼吸器疾患においてもCOPDとくに慢性肺気腫の患者が増加する傾向にある。肺気腫自体は器質的变化が大部分を占めるため、いわゆる非可能逆的疾患であるが、閉塞性換気障害による息切れやセキ・痰などの気道症状、さらには易疲労感や食欲不振、**痩**せなどの自他覚的症状は治療に応じて、かなり変化する部分もある。

慢性肺気腫を漢方医学的にみると、陰（寒）虚証で肺気虚のケースが多く、しかも易疲労性・食欲不振など脾胃の虚および腎気虚も伴っていると考えられる。気血水では気うつ・気虚など気の病に加えて、血あるいは水の病と考えられる部分もある。

慢性肺気腫の治療については、現代医学による疾患分類であるため、当然、同病名の漢方の弁証論治は見当らないが、虚証の久（慢性）病で大陰病位にある疾患特性を考慮すると、漢方治療の好適の対象といえることができる。

〔方法〕 私達がかねて慢性肺気腫症例に対して、随証的に漢方方剤の併用を試みてきた。使用する方剤としては、肺気腫患者の証を考慮して選択した結果、本証の治療には補益剤を中心とした補劑群（補中益気湯，**苓**甘**姜**味辛夏仁湯，柴胡桂枝乾**姜**湯，他）が有用であるとの印象が得られたので、一定期間投与した症例を選んで、それらの臨床経過を分析してみた。

〔結果〕 大半の患者において、労作時の息切れ・セキ・痰などの減少に加えて、易疲労感・食欲不振・発汗などの自覚症状の改善にかなり寄与し、しかも体力が増加するなどQOLが改善していることが推察される結果が得られた。

それらの成績を裏付ける臨床データとして肺機能・血液ガス・体重などの数値についても若干の改善を示す所見が得られた。また、本症の最大の増悪因子である感冒罹患も減少する症例が1/3程度に認められた。

〔総括〕 以上の結果から、慢性肺気腫のケアにおいては、酸素療法・理学療法・心理療法・一般薬物療法に加えて、随証的に選択され、和漢薬の併用投与がかなり有用であることが推察された。